

平成20年度 輪之内町立仁木小学校 学校評価書

学校の教育目標	ひろい心もち 豊かに表現できる子 ○学び つくりだす子 ○思いやり あふれる子 ○たくましく きたえる子
経営の重点	<p style="text-align: center;">「明るく、活力ある、開かれた学校」をめざして — 一人一人に「生きる力」をはぐくむ指導 — 学校の教育目標の具現に徹し、全教職員の創意と協力態勢による学校づくり</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>1 職員の総力を結集した運営組織の確立</p> <p>2 人間性を磨き、教師としての専門性を高める研修の充実</p> <p>3 学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進</p> <p>4 豊かな心を培う活動と成就感を味わうことができる指導</p> <p>5 家庭や地域社会との連携の強化</p> </div> </div>

町の重点	評価の観点	自己評価	成果	来年度の課題と改善策	学校関係者評価（意見）
【学校経営】 全教職員が協力して信頼される学校づくりをする。	1 <組織運営>教職員の特長を活かした校務分掌や主任制等、学校の組織が適切に構築され、機能しているか。	A	<p>○それぞれの校務分掌を職員が責任もって取り組めた。(4)</p> <p>○各種打ち合わせが適時にあり、組織として動きやすい。</p> <p>○アイガモ農法や野菜作り、4年生のグラウンドワークなど、独自の教育課程で地域の実態に応じた学習があった。</p> <p>○地域人材や地域の施設の活用が積極的になされた。</p> <p>○いろいろな場面を想定した避難訓練や、遊具点検、登校指導や下校指導など安全に関わる指導が積極的に行われた。(2)</p> <p>○行事後にアンケートをとり、改善に生かすことができた。</p> <p>○学校だよりを通して、タイムリーに情報提供ができた。</p> <p>○行事にPTAの協力が得られありがたい。</p> <p>○保育園の子を招待する活動があり、保育園の子どもの様子をみることができるよい機会があった。</p> <p>○諸帳簿は適正に処理されている。(2)</p> <p>○図書担当を中心に児童への読書の勧めがなされ、利用状況が高くなっている。(3)</p> <p>○本の読み聞かせ等が積極的に取り入れられていてよい。</p>	<p>・スリム化に向けて学校行事、会議の精選について検討が必要。</p> <p>・地域の実態把握を進める。</p> <p>・安全点検をより確実に行う。</p> <p>・毎週の班長会の充実を図る。</p> <p>・よりよい保護者向けアンケートの項目の検討をする。</p> <p>・ホームページを定期的に更新する。</p> <p>・毎年1年生の子の大変な様子から、保育園との連携を更に密にする。</p> <p>・図書館の本の貸し出しをパーソナライズし、状況把握や本の貸し出しを簡素化したい。(3)</p> <p>・図書館の司書の学校巡回の回数が増えたとよい。</p> <p>・書籍をもっといねいに扱うことを指導する。</p>	<p>・学校の方針、教育活動や指導がよくわかるように情報提供がなされている。</p> <p>・「みのり発表会」のワークショップは、「自ら課題を見つけ、考え、解決する」という学習過程そのもので、特色ある教育課程としてたいへんよい。</p> <p>・学校は新しい教育課題(情報、環境、福祉、国際理解、ボランティア等)に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・家庭での読書が予想外に行われていないとのことであるが、原因は親にあるのではないかと、親がテレビ中心では子どもの読書は期待できない。PTAの活動として、読書の取り組みをしたらどうか。</p> <p>・学校を訪問したり電話をしたりしたときの職員の対応がよい。</p>
	2 <特色ある学校>教職員の共通理解のもと、子どもたちや地域の実態に応じて特色ある教育課程が編成・実施されているか。	A			
	3 <危機管理>全教職員が、災害・事故等に対して常に危機意識をもち、子どもたちの安全確保を最優先にした環境を築く実践的な体制が確立されているか。	A			
	4 <開かれた学校>学校の教育方針や活動について、家庭や地域社会に積極的に情報提供するとともに、学校評価(自己評価+外部評価)の結果を公表し、開かれた学校づくりに努めているか。	B			
	5 <連携・協力・啓発>保・小・中・(高)など学校間接続やPTA(保護者)、地域住民(団体)、行政機関等との情報交換や連絡調整及び家庭や地域社会に対して啓発活動を積極的にやっているか。	B			
	6 <情報・資金管理>各種文書や個人情報及び町費やPTA会費・各種積み立て等の資金が適切に管理されているか。	A			
	7 <図書館教育>学校図書館が利用しやすく整備され、図書の計画的利用や読書活動の推進に取り組んでいるか。	B			
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	8 <校内研修>校内研修(校内研究・現職研修等)の課題が適切に設定され、組織的、計画的に実施されているか。	A	<p>○主題研を通して課題を深め、総合における授業の進め方方向性が出た。</p> <p>○新学習指導要領の実施に向けた研修会がもてた。</p> <p>○自己課題を意識して、県総合教育センター研等に進んで参加できた。(2)</p> <p>○研修報告が無理のない時間になされ、伝達が無理なく行われていた。</p> <p>○日常的にICTが使われ、情報モラルについても、計画された内容で指導できるように研修できた。</p>	<p>・町研究発表会について具体的なイメージを持つ。</p> <p>・研修したことの伝達講習の時間を確保する。</p> <p>・校務分掌上、出張が集中してしまう先生がある。</p> <p>・連絡調整的な出張を減らして、もっと研修に行けるとよい。</p> <p>・ITC活用を多くの先生が進んで取り組んでいるが、その例を他の先生方にも紹介して広めたい。</p>	
	9 <個人研修>一人一人が個人研修課題を設定し、校内外の研修に積極的に参加しているか。	B			
	10 <情報研修>「わかる授業」のためのICTの効果的な活用法及び情報モラル等について幅広く研修しているか。	A			
【教科指導】 自ら学び自ら考える力を育成するとともに、基礎的・基本的内容の確実な定着を図り、個性を生かす指導を充実させ、児童生徒の感動を引き出す。	11 <基礎・基本の定着>指導目標と評価規準を明確にした指導計画のもと、基礎的・基本的な内容を定着させる授業づくりに努めているか。	B	<p>○ICTを有効的に授業に取り入れ、分かりやすい授業がなされた。(3)</p> <p>○見やすいノート指導ができた。(2)</p> <p>○少人数指導を各担任と連携して、進めることが出来た。(3)</p> <p>○自己評価を取り入れ、学習の振り返りができるようになった。</p> <p>○「聞く」「話す」について全校で取り組み、成果が現れた。(3)</p> <p>○学年が上がるにつれて、学習集団がよく育っていた。</p>	<p>・総合だけでなく、教科や道徳の交流を進める。</p> <p>・各教科における「言語活動」の具体的なものを理解する。</p> <p>・与えられたことはできるので、自分で判断・表現する力をのばせるような学習計画が必要である。</p> <p>・繰り返し、高め合い、学び合いができる話し合いの位置付け</p> <p>・少人数指導を、習熟度別の特性を生かした子どものニーズに応じた学習計画を考えていく。</p> <p>・学業指導について、強化週間後の定着を図りたい。(2)</p> <p>・方向性のある家庭学習指導</p>	<p>・授業は分かりやすく工夫が見られる。授業が楽しそうである。</p> <p>・雰囲気がよく、子どもたちは生き生きと生活している。</p> <p>・教室の掲示物がよく整備されている。廊下の掲示物にもよいものがあり全校で共有したい。</p> <p>・少人数指導もよいが、手を貸すことがプラスばかりではない。手厚さが返って心配になる。(自主学習や自学自習ができるようにしたい。)</p>
	12 <個に応じた指導>個の学習状況に応じた多様な指導方法や体制・評価を工夫改善して、きめ細かな指導がなされているか。	B			
	13 <学習集団>学習の規律・習慣が確立し、共に高め合うことができる学習集団が築かれているか。	B			
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	14 <全教育活動を通じた道徳教育>道徳の時間と他の教育活動との関連を明確にし、全教育活動を通して道徳教育を充実させる全体計画や指導計画の工夫改善がなされているか。	B	<p>○道徳授業研や道徳計画訪問を通して、道徳の授業や道徳コーナーの充実が図れた。(5)</p> <p>○学級の歩みと道徳の授業の関連が図られた掲示がどの学級にもある。(3)</p> <p>○登下校指導を通してよく挨拶がきえるようになってきた。(5)</p> <p>○あいさつは登下校指導の一環として、美化活動は総合で、と生活に関連して行われている。</p> <p>○保護者への啓発であいさつ運動の広がりがあった。</p>	<p>・新指導要領の実施に向けて、全体計画や年間計画の見直しをする。</p> <p>・今後も共通理解したことを大切に、児童の心を理解しようとする日常でありたい。</p> <p>・あいさつ運動の取り組み期間後も、意識が持続するよう、良いことみつけなどで進んでほめたり、先に挨拶をしたりする。</p>	<p>・道徳の時間が大切にされているのはたいへんよい。</p> <p>・道徳と学級の活動との関連を重視していることや、そのこと分かる掲示がとてよい。</p> <p>・道徳の時間を使って、「考える」ことや「人への思いやり」を十分に育成してもらいたい。</p> <p>・ものを大切にする心を育てている。エコに関することも継続してほしい。</p>
	15 <道徳の時間>教材開発や指導方法の工夫、道徳コーナーの設置、心のノートの有効活用等を通して、道徳の時間の充実に努めているか。	A			
	16 <心を育む体験活動>町の道徳実践の重点(あいさつ、美化、ボランティア)への取り組み等、家庭や地域社会と連携した豊かな心を育む体験活動を工夫しているか。	B			
【特別活動】 所属感を高め、自主的・実践的な態度を育てる。	17 <自発・自治的な活動>集団や社会の一員としての自覚を深めるため、児童・生徒会活動や学級活動等において、自発的、自治的な活動を大切に、展開しているか。	B	<p>○児童が主体となって行う活動が増えてきた。(2)</p> <p>○常時活動がそれぞれの委員会等で充実しており、学校運営の一員として自分たちが組織していると感じることができる。</p> <p>○行事終了後、出来るだけ早く反省会を行ったり、頑張りを紹介したりした。</p>	<p>・新指導要領の実施に向けて、全体計画や年間計画の見直しをする。</p> <p>・学校行事で付けたい力を低中・高別に計画にして取り組む。</p> <p>・委員会活動等に工夫が見られるようになってきているが、更に自治的な活動を鍛えていく必要がある。</p>	<p>・学校の諸活動(行事)がたのしく充実したものになるよう工夫されている。</p>
	18 <評価>個々の活動状況を見届け、一人一人の良さや可能性を認め、励ましているか。	B			

【総合的な学習の時間の指導】 よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	19	<全体計画・指導計画>ねらいや内容、他教科との関連等を明確にし、小中7年間を見通した全体計画や指導計画が工夫改善されているか。	B	B	○仁木小学校として、各学年のテーマがはっきりしている。 ○地域の実態に応じている。地域人材の登用や見学など、実感を伴った学習が進められている。(2) ○付箋の活用やアピールが進化したプレゼンテーションなど、問題解決の過程を大切にしたり取り組みがあった。	・新指導要領の実施に向けて、全体計画や年間計画の見直しをする。(2) ・出口を明確にすることで、学習意欲を高める。 ・関わった人や施設など一覧表やファイルなどに整理され誰でも利用できることよい。	・地域と関わりながら進められている総合的な学習の時間はとてもよい。 ・座学と総合的な学習の時間でやっているような学習をうまく組み合わせさせてさらに力をつけてほしい。 ・みのり発表会での満足度は、他のいろいろな場面(学習する意欲、あいさつなど)にも波及が期待できる。
	20	<体験的・問題解決的な活動>自ら学び、自ら考える力が高まるよう、体験的・問題解決的な学習活動を展開しているか。	B				
【生徒指導】 児童生徒一人一人に正対して共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。	21	<生徒指導(教育相談)体制>いじめ問題や不登校・暴力といった生徒指導上の諸問題に対して、未然防止や早期発見、早期対応を図るための生徒指導体制(教育相談体制)が構築され、機能しているか。	B	B	○生徒指導主事を中心に連携ができ、問題が起きたときの共通理解、共通行動できるだけでなく、問題を未然に防ぐよう体制ができていく。(8) ○仲間アンケートを定期的実施することで、児童の状況把握が密である。 ○道徳との関連や、学級の宝など成長が分かるような掲示ができた。(4) ○日頃から命の尊厳や危険防止について指導されている。 ○あいさつ運動を、児童会が中心となって進め、児童同士の声かけも自然と出てきている。 ○見守り隊の方が、下校時刻をみて、いつも来ていただいているので、とてもありがたい。	・今後も子どもたちの情報交流を定期的に行う。 ・相談室の利用や、気軽に教師への相談ができるようになるような雰囲気作り。 ・「挨拶、整理・整頓、廊下歩行」を引き続き指導する。 ・生活目標について、取り組み期間だけでなく、継続性のあるものとしていく。 ・夏休みの地区集いに、もう少し出席者が増え盛況になるとよい。 ・今後とも保小中の積極的な連携、交流を進める。 ・見守り隊の方などに対する態度について、気になる班は改めさせていきたい。	・子どもたちが明るくなった感じである。昨年より成長している。 ・子どもたちは校内や地域でよくあいさつができていく。 ・先生と子どもとの心が通い合っている。
	22	<学年・学級経営>子ども一人一人が個性を發揮し、存在感・所属感を感じるような学年・学級づくりをしているか。	A				
	23	<生命尊重・倫理観・規範意識>命の大切さや基本的な倫理観・規範意識を体得できるよう、繰り返し指導しているか。	B				
	24	<地域ぐるみの生徒指導>地域における児童生徒の健全育成に向けた取り組みなどを支援するとともに、小中や関係機関と連携し地域ぐるみの生徒指導を推進しているか。	B				
【進路指導】 自己の生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。	25	<進路指導体制>児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進するための進路指導体制が構築され、全体計画や年間指導計画が整備されているか。(共通)	B	B	○各学年に応じて栽培が行われ、収穫の喜びを味わえた。 ○4年生の飼育や3年生の地域のお店探検を行うことができた。 ○掃除に取り組む姿が全体的に良くなった。(2) ○飼育では4年生が欠かさず当番を守り、毎日こまめに世話していた。	・学級活動に「将来の夢」を主題とした授業(講話)を高学年を中心に実施する。 ・全体計画など、具体的な活用方法を考える。 ・私語なし掃除に、全校体制でもっとこだわっていく。 ・学習園の除草を頻繁に行う。	
	26	<勤労観・職業観>望ましい勤労観や職業観が身に付くような体験活動を意図的・計画的に実施しているか。(共通)	B				
	27	<ガイダンス>一人一人の進路希望や能力・適性を生かすことができるよう、個に応じた適切なガイダンスを行っているか。(中)					
【健康教育】 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	28	<保健・安全・食>児童生徒の生活習慣や健康状態を的確に把握するとともに、他の教育活動との関連を踏まえて「保健・安全・食」に関する指導を工夫改善しているか。	B	B	○食育の指導が授業参観等でなされ、児童や保護者に啓発できた。(2) ○外遊びをする児童が多く、運動に親しみをもっている。(2) ○体力テストの結果を体育の授業に生かした。 ○さなえマラソンによって、体力の向上が促進されている。	・今後も食の大切さを児童に声を大にして伝え、残さず食べる指導、マナー指導を行う。(2) ・低学年で特にケガの発生率が高い。随時指導していくことと、危険性をもっと話していく必要がある。	・保護者が子どもの心身の健康について気軽に相談できる体制をより一層充実させてもらいたい。
	29	<運動推進>運動技能を身に付け、仲間と一緒に運動する楽しさや喜びを味わうことかできるように努めているか。	B				
【特別支援教育】 一人一人の特別な教育的ニーズに応じ、自立した社会参加するための基盤となる力を育てる。	30	<校内支援体制>校内委員会や特別支援教育コーディネーター・校内研修等、特別支援教育推進のための校内支援体制が整備され、機能しているか。	A	A	○コーディネーターの先生が中心になり、その子のニーズに合わせた支援が組織的にできた。(4) ○支援員の配置がありがたい。 ○就学指導が適切に行われた。(2) ○夏休みに個別の教育支援計画と指導計画をたて、指導に生かすことができた。 ○積極的に交流が進み、交流学級の子たちとの温かな触れあいの中での成長が見られる。(5)	・支援が必要な児童の実態がほぼつかめたので、来年度はじめには、計画が立てられるように計画的にすすめる。(2) ・支援学級についての全職員の理解を上げたい。 ・ますます該当の子の人数や支援の内容が増え対応できなくなるのではないのか。 ・将来のことも含めて、保護者との連携(啓発?)を図っていく。 ・4月当初から、交流学習を計画的に進める。	
	31	<個別の支援>一人一人の特別な教育的ニーズに応じて、個別の指導計画や教育支援計画が作成されるとともに、指導内容や方法、教材教具の工夫に努めているか。	A				
	32	<交流及び共同学習>特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習を計画的に行っているか。	B				
【人権同和教育】 不合理な差別をなくし、人権を尊重するあたたかい人間関係を醸成する。	33	<人間関係の構築>互いのよさを認め合う、温かく思いやりのある人間関係を形成する指導を工夫しているか。	A	A	○人権同和主任が中心になって、ひびきあいの日に向けて充実した取り組みができた。人権擁護委員の方のお話やDVD視聴が効果的だった。(7) ○さんづけの定着 ○仲間アンケートを定期的実施し、児童の実態把握につとめ、先手を打った指導や対応ができた。(5)	・理解と行動は別であり、日頃の観察が大切である。 ・小学校では「さんづけ」にこだわって指導を続けているが、小・中一貫した指導ができるとよい。 ・時と場に応じた話し方をさせていきたい。 ・友達に対する話し方が気になる児童への指導の継続	・生命や人権の尊重に配慮した教育活動がよく行われているが、今後も一層の強化充実を図ってもらいたい。
	34	<いじめ・差別の解消>いじめや差別を許さない学校・学級作りに向けて全校が一丸となった取組を継続的に進めているか。	B				
【情報教育】 教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	35	<情報活用能力>情報活用能力における児童生徒の実態を把握し、段階表に基づいた系統的な指導に努めているか。	B	A	○パソコンを身近に感じる環境ができていく。 ○授業に活用できるデータが準備されていてよい。 ○情報モラル週間を位置付け、すべてのクラスが取り組み、保護者への啓発も図ることができた。(4) ○町教委 大倉先生と連携して情報モラル指導ができた。	・わかる授業のための活用はよくなされているので、調べてまとめて伝える活動にICTを積極的に取り入れたい。 ・情報活用能力段階表で確認しながら、指導内容をやりきる。 ・その時々新しい情報モラルの指導を情報主任を中心に今後も継続する。	・情報モラルの学習を1年生からやっているのがとてもよい。
	36	<情報モラル>情報モラルについて、意図的・計画的な指導を行っているか。	A				
【ふるさと教育】 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し、誇りに思う心を育てる。	37	<ふるさと学習>地域を知り、理解するための活動や地域人材を活用した授業を展開するなど、地域に根ざしたふるさと学習を積極的に推進しているか。	A	B	○教科や総合などで地域に向いたり、地域人材を迎えたりすることがよくなった。(5) ○オサホン先生の温かい人柄に惹かれ、子供たちは授業を楽しみにしている。身につく力も大きい。(7) ○中国交流の引率が教育委員会になってよい。	・使いやすい人材バンクの整備 ・新学習指導要領の完全実施に向けて、4年生以下の英語活動の位置付けを検討する。 ・英語の時間だけでなく、オサホン先生とふれあいの時間がとれるとよい。 ・中国交流は一部の子だけの参加であり、廃止にはどうか。(2)	・ALTのおかげで英語の授業の雰囲気が良い。会話力も高まっているようである。 ・英語は使うことで身につく。よって、使わざるを得ない環境や使いたいという意欲の育成に努めてもらいたい。
	38	<国際交流>中国(小)やカナダ(中)との交流活動を充実させると共に、ALTを有効に活用した英語活動を推進しているか。	B				

※評価欄の記号 A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である